

1 テーマ

「やってみよう!」「できる!」やる気あふれる万場っ子
～学びとの・人との「つながり」を意識した「追究する活動」を中心に～

2 研究のねらい

本校では、これまで、名古屋市の授業づくりの重点である「ナゴヤ学びのコンパス」のもと、「なかまなビジョン」を共通基盤とした、算数科での授業実践を行ってきた。一昨年度は「なかまと対話する」段階に焦点化し、対話活動の在り方を工夫したことで、学び合い高め合う子どもの姿が多く見られるようになった。また、昨年度は「めあてをつかむ」段階に焦点化し、学ぶペースや課題の追究方法を選択・決定して個々の「めあて」として設定するようにしたことで、子ども中心の学びの中で、前向きに学ぶ子どもの姿が多く見られるようになった。一方で、多くの子どもが、学習の系統性・連続性や、学習と実生活との関連性を実感できず、粘り強く前向きに自律して学び続ける姿には至らなかった。また、「なかまと対話する」段階を意識するあまり、指導者側から対話活動を設定する機会が多くなったことで、子どもの必要感に根ざした対話活動とはなりにくかった。

以上を踏まえ、今年度は「なかまなビジョン」における「自分の考えをもつ」「なかまと対話する」段階を包括する展開場面「追究する活動」を中心に実践を行う。「学習の系統性・連続性」「子どもの必要感に根ざした対話」を、学びとの・人との「つながり」と捉え、展開を中心とした全ての場面で「つながり」を意識した実践を行うことで、次も「やってみよう!」「できる!」と、ゆるやかな協働性の中で、自律して学び続ける姿勢を育んでいきたい。

3 本年度の取り組み（具体的な手立て）

「なかまなビジョン」に示された学習過程のモデル

導入「問題意識を生み出す活動」	→ ◎	展開「追究する活動」（重点）
	→	まとめ「学んだことをまとめ、振り返る活動」

○ 各段階で学び・人との「つながり」を意識できるよう、次に示す点に留意する。

導入「問題意識を生み出す活動」（「めあてをつかむ」段階）

全体で設定した学習目標（明確な授業のねらい・単元のゴール）をもとに、学ぶペースや追究方法を選択・決定して、個々の「めあて」を設定する。前時の活動や既習事項、生活場面等、学びとの「つながり」を意識できるよう、教材提示の方法等を工夫する。

展開「追究する活動」（「自分の考えをもつ」「なかまと対話する」段階）※ 重点

個々の「めあて」を大切にし、個人で考えたり、書いたりする時間を十分に確保することで、一人ひとりの考えを十分に引き出せるようにする。また、学びの「つながり」を意識・発揮しつつ、子ども自身が人との「つながり」を通して追究したいと思えるような授業展開・活動となるよう、発問や学習活動の在り方、対話活動の場の設定等を工夫する。

まとめ「学んだことをまとめ、振り返る活動」（「まとめる」・「振り返る」段階）

A Iドリルや諸教材を活用し、適用・活用問題に取り組む。学習目標に対するまとめを子どもの言葉で整理する。個々の「めあて」をもとに、実生活や、短期的・長期的な学びの「つながり」を意識した振り返りを行う。

4 研究の方法について

(1) 評価の方法

- 学期に1回以上「S c T N（主体的・対話的で深い学びのための意識・実態調査）質問紙ライト」（4～6年は「学びポケット」上で実施する。1～3年生の実施方法や時期・集計方法は推進委員会で検討）を行い、変容を見取る。

(2) 研究計画

- 各学級で年1回、校内に向けて算数科の授業研究を公開する。
 - ※ 通級指導担当教諭は教科を限定せず、主題に合わせて授業を公開する。
 - ※ 展開場面「追究する活動」の分析を中心に、部会で分担して参観する。
- 事前検討会を学年で行う。
- 事後検討会を部会で行う。事後検討会の記録を作成し、まとめに代える。
- 実施時期ができるだけ重ならないよう、部会で計画する。1週間前を目処に授業日を教務主任・主幹教諭に伝える。前日までに略案を職員の机上に配布する。
- 保護者に向けても年1回、努力点授業公開を行う。（学校開放日【10月】）
また、研究の様子を学校だより、学年だよりに掲載する。
- 年2回の報告会（中間・最終）を行い、子どもの変容や手立てについて話し合う機会を設ける。

5 研究組織

